

第3回 多治見市総合計画市民委員会 議事要旨

期 日：平成23年7月13日(水)

時 間：18:00～21:00

場 所：市役所5階全員協議会室

出席者：別表のとおり

議事

(1) 基本構想(案)の確認について

- ・ 事務局より、前期計画からの変更点(「資料1：基本構想(案)」中の網掛け部分)について説明

【委員意見】

(「資料1：基本構想(案)」P6の「人財育成の図」について)

- ・ まちと地域の違いがわかりにくい。1つにまとめ、「学校」、「職場」など、他の言葉を加えてはどうか。
- ・ 「まち」、「地域」、「家庭」の他、「行政」を加えてもよいのではないか。
- ・ 「人財育成」は、短期で「人財」を育て、長期的に「人財」が市の発展に寄与すると想定していた。しかし、優れた「人財」は既に市内に存在しており、「人財」を活用していく、と考えるべきではないか。
- ・ 「人財育成」を中長期的にとらえる場合、これからの多治見市を背負っていく子どもや孫に、どうやって多治見を好きになってもらうかが大切ではないか。互いの思いやりや人とのつながりで人は育つ。
- ・ 「親育ち4・3・6・3たじみプラン」が策定された頃、「親育ち」という言葉を聞いて、親は懸命に子育てをしているにもかかわらず、親に問題があるというイメージを突きつけられたようで違和感があった。しかし、PTA活動でいろいろな親の状況を知り、そのような気持ちも薄れてきた。子育て中の母親には目の前しか見えていない方が多いが、モンスターペアレンツといわれる方たちも好きでなっているわけではない。昔はそれなりに解決方法があった。核家族化が進んでいない頃は、家族だけでなく地域やまち全体で子どもを見守っていた。また、大家族であればいろいろな意見があり、一人の子に対して「親」の目がたくさんあった。核家族化が進んだ今の母親には、誰にも相談できずに一人で抱え込んでいる方が多いのが実情であり、子どもの視点を狭めてしまうことも問題ではないか。例えば、職場や仲間から「あなたがいてくれて助かる」など、自分の存在価値を認めてもらう言葉をかけてもらうとモチベーションが高まり周囲が見えるようになる。社会に必要とされている、社会とつながっているという自信が親を育てていくのだと思う。
- ・ 人が育つ場には、学校や職場、それ以外にもボランティア活動などいろいろある。「まち」、「地域」、「家庭」という概念にそれらの場が含まれるのであれば、「人財育成の図」にも例示として記載してはどうか。

(会長より「人財育成の図」を提案)

- ・ 会長がご提案された「人財育成の図」がとてもイメージやすい。事務局でも再度検討して欲しい。
- ・ 会長が提案された「人財育成の図」は短期で「人材育成」を進めるように見える。それに対し

て事務局が提案した「人財育成の図」は中長期で「人財育成」を進めるように見える。どちらを掲載することとしても問題はないが、10年あるいは20年先を考えるのであれば、事務局案とする方がよいのではないか。

- ・ 会長が提案された「人財育成の図」では、「人財」が「郷土愛」や「生きがい」などに作用する正のサイクルがうまくいくと、その逆方向のサイクルもうまくいくことがイメージできる。
- ・ 「地域」に「学校」や「職場」などをイメージできる言葉を追加してはどうか。
- ・ 会長が提案された「人財育成の図」では、「元気」が図の中央にあり、相関関係がイメージしやすい。
- ・ 事務局が提案した「人財育成の図」では、いろいろな要素が働きあい、「人財」が生まれるまでが大変に見える。対して会長が提案された「人財育成の図」では、どこでも「人財」は生まれるのだとイメージできる。
- ・ 人は「学ぶ」か「働く」か「その後（定年後）」かの3要素に分けられる。「人財育成の図」に反映できないか。
- ・ 事務局が提案した「人財育成の図」では「人財」が中心となっているが、会長が提案された「人財育成の図」では「元気」が「人財」に戻る双方向のサイクルがイメージできる。
- ・ 「人財育成」は短期で育成するのか、それとも長期で育成するのかで定義が変わってくるが、長期展望ばかりを描いていても計画があいまいになる。後期計画の期間中で実行できることを考えるのであれば短期の育成としてとらえた方が、何をすべきか考えやすく、予算化もしやすいのではないか。四年間で集中してまちの活性化を目指すためには、将来的な次世代の育成も必要ではあるが、「人財」の「再発見」とでもいうような取り組みを進めたほうがよいのではないか。

【事務局より】

- ・ 「人財育成」を目的としてとらえていたが、本日の議論において「手段」としてとらえ直す考え方をいただいた。ご意見を踏まえ、事務局でも再度検討させていただく。
- ・ 「人財育成」の捉え方（短期・中長期）については、本文中の「未来の担い手の育成」という記述が限定的ではないかという指摘も別にあり、「まちづくりの担い手」に修正させていただく。

（「資料1：基本構想（案）」P7の「第2章 第2節 元気であり続けるための視点」について）

- ・ 「4つの目」については、委員会中でも意見のあった「若者の目」も追加してはどうか。
- ・ 「4つの目」については、年齢と性別をクロスして考えてはどうか。

【事務局より】

- ・ キャッチフレーズとして市民にPRしてきているので変更は難しい。「子どもの目」の中に若者も含んでいると考えているため、提案の通りとさせていただきたい。

（「資料1：基本構想（案）」P7の「第2章 第3節 政策分野ごとの元気」について）

○「産業・経済」に関する記述について

- ・ 雇用を生み出すことで、税収を上げるとともに人口増にもつながる、また、雇用は市民の収入増を生み、消費拡大にも寄与する、という循環が生まれる。記述において強調した方がよいのではないか。
- ・ 他自治体の総合計画では産業振興に力を入れているものが多い。もう少し具体的な記述を追加してほしい。
- ・ 企業誘致を積極的に推進していることを盛り込み、市が雇用に対処していると、市内の若者が夢を持てるようにしていただきたい。
- ・ 多治見では若手の企業家が頑張っている。そのような要素も取り入れてほしい。
- ・ 企業誘致は最も雇用を創出する施策であり、できれば記述していただきたい。
- ・ 「日帰り観光の強化」が新たに記述されているが、多治見・土岐・瑞浪を特集する雑誌が発行されているのを最近見かけた。魅力あるお店や観光スポットの紹介があり、市外の方だけでなく

く、多くの市民も目にしたと思う。とてもよい PR になるので、ぜひ行政からも後押ししてほしい。

- ・ 日帰り観光だけでは、なかなかお金が落ちない。「日本一暑いまち」であること、メディアへの露出が高まり、ゆるキャラとしての魅力が大きい「うながっば」などの強みを活かし、市外からの観光客を呼び込み、宿泊や飲食につなげる観光も大事だと思う。
- ・ 日帰り観光では、リピーターが増えないと意味がない。市民も楽しめ、市外の方にも魅力のあるスポットをたくさん確保する必要がある。

(2) 基本計画事業に対する意見への対応について

- ・ 事務局より、委員より事前にいただいたご意見への対応（資料3）について説明

【委員意見】

なし

(3) 基本計画事業（案）について

- ・ 資料2「基本計画事業（案）」について、新規事業を中心に概要を事務局より説明

【委員意見】

○全般

- ・ 総合計画の策定や見直しにおいて感じるのは、次の計画にどう引き継がれるのかということ。計画の見直しや市長の交代により、よい施策がうまく引き継がれないと残念。大事な施策をうまく引き継ぎ、継続実施してほしい。

○政策分野「教育・文化」

「[111-8]学校給食を充実するとともに食育を進めます」

- ・ アレルギーがひどく、食事で苦勞されている保護者が多い。命に関わることであるため、行政としても対策に取り組んでほしい。

「【新規④】親育ち4・3・6・3たじみプランに基づき、親子の良好な関係を築きます」

- ・ 親育ち4・3・6・3たじみプランを新規事業として掲げることはよいことだと思う。プランの名称は知っていても具体的な取組内容を知らない方は多いと以前から感じていた。プランについて広く知っていただく体制づくりをお願いしたい。
 - ・ 4・3・6・3のうち「4」の時期は情報を得にくい。市内で継続的にサポートする体制があることを周知するため、事業を追加してはどうか。
- 保健・医療・福祉の施策に新規事業として挙げている。妊娠期から乳幼児期の大切な期間であり、主に児童館・児童センター、子育て支援センター、保健センター事業として捉えている。
- ・ 市の乳幼児施策はすばらしいとの評判を聞いている。母親同士のつながりができにくい「4・3」の時期に、乳幼児健診で絵本を進呈し、読み聞かせを推進する「ブックスタート事業」があった。サポート事業を通じて知り合い、情報交換する方もいた。

○政策分野「産業・経済」

「231-1 美濃焼のブランド力の向上や販路開拓に取り組む積極的な事業者を支援します」

- ・ JCの加入者は地場産業に携わる人が少ない（47名中2名）。地場産業の推進は今後の課題だと思う。
- ・ 近年は中国などからの観光客が増えてきているように思われる。窯元の陶磁器を大量に購入する富裕層などをターゲットにするとよいのではないかと。展示会等での評価が高くても、相手国のニーズにあわせなければ売れる商品とはならない。特に中国はブランド志向が強く、輸出に目を向ければ市場拡大の余地があると思う。現地へ実際に赴き、言語や食等の文化を体験することによって勉強し、商品開発において積極的に取り入れるべき。そのためには、視察ルートや見学のポイントなどを事前にリサーチするなど効果的な海外視察を取り入れる必要がある。

前向きに頑張っている企業や団体に集中して、行政も支援してほしい。

「231-2 美濃焼の製造技術やデザインの担い手を育成します」

- ・ 優れた絵付けの技術を持っていても、高齢化で廃業を余儀なくされる方もいる。市として担い手の育成をぜひお願いしたい。
- ・ 陶磁器意匠研究所には市内にとどまらず全国から入所希望者が集まってくるが、その生徒が今年の9月に開幕する国際陶磁器フェスティバルに向けて、障がいをもった方の作陶をボランティアで何度か手伝っている。これこそが「人財育成」だと感じた。

○政策分野「都市基盤」

「【新規①】 まちなか居住の促進と低炭素型まちづくりを推進します」

- ・ コンパクトシティのことを指していると思うが、具体的にはどのようなものを考えているのか。
- コンパクトシティは駅南北の整備で集約している。本事業では、JR 多治見駅と根本駅等の近隣駅を結ぶエリアを対象に、公共交通を使ったまちづくり、自動車を使わないまちづくりへの転換を目指すもの。
- ・ 「低炭素型まちづくりの推進」という表現がわかりにくい。「CO₂削減」とした方がわかりやすいのではないか。
- 他の計画が同様の表現をしており、整合性を図るためにあえて「低炭素型まちづくりの推進」という言葉を用いている。注釈を付すなどして対応させていただきたい。

「【新規③】 歩行者と自転車が安全に通行できる空間を確保します。併せて自転車歩行者ネットワークを推進します」

- ・ 他市では、幅5メートル程の道路にもかかわらず、車道と歩道に段差をつけるなどして整備したところがある。車社会であることを考慮し、硬直的に段差をつけて整備するのではなく、カラー舗装にとどめて心理的に車道と自転車道を分離してはどうか。
- 歩車道分離においては、断片的整備では効果が低いと考えている。事業実施の中でカラー舗装も個別に検討し必要に応じて実施できると思う。

○政策分野「生活環境」

「421-4 花づくり・花かざり活動を支援します」

- ・ 事業内容を見ると、前期にあった「花づくりコンクール」が後期計画では挙げられていない。広報紙でも受賞の報告が掲載されていたが、後期計画では実施しないのか。
- 同コンクールは市が毎年主催していたものだが、開催スパンや実施主体を見直す予定。コンクールを廃止するものではない。

○政策分野「保健・医療・福祉」

「512-3 通院費助成の対象年齢を小学校3年生までとします。今後実施主体について協議をすすめます」

- ・ 子どもの医療費助成の対象拡大について、周囲の母親の声を踏まえて意見を述べた。しかし、3月11日（東日本大震災）の後、いろいろと考えるようになった方もいる。「市の財布はひとつであり、医療費助成も家計には助かるが、そのために行政施策で他の施策が削られるのであれば実行しない方がよいと考えるようになった。」とのこと。医療費の助成だけでなく、子どもの心を育てるような施策も大切であり、また、助成拡大が実現すれば、軽症でも安易に受診することも想定される。なにより、制度導入による医療機関での混乱も懸念される。全ての市民への助成よりも、長期治療の必要な方、重症な方への支援を優先すべきだと思う。制度を開始したら止めることは難しいので、もう少し丁寧に検討してほしい。
- 医療費助成に関しては、後期計画の見直しにおいて最も関心が寄せられている施策の一つだが、実行のためには毎年1億4千万円もの費用がかかることになる。県内ではほとんどの市町村が実施に踏み切っており、多治見は遅れているのが現状。岐阜県は特に医療費助成を積極的に実施し

ていると思うが、都道府県単位で傾向を見ると、あまり実施されていない。財政的に豊かな時代に開始し、財政状況が厳しくなって苦勞している自治体もあると思う。議会でもワンコイン負担等、方法論についてのご意見をいただいているが、医療機関の協力が必要となるため慎重な議論が必要。ご意見の通り一度開始したらずっと続く可能性が高く、計画に実効性を持たせるためにも予算とのリンクが欠かせない。

「【新規③】 予防接種を適正に実施します」

- ・ 子宮がん予防接種について、現在多治見では中学 1 年生から高校 1 年生までに対象を限定しているが、接種年代を拡大してほしい。

「541-4 成年後見制度利用支援事業を継続し、高齢者の権利擁護を推進します」

- ・ 多治見では判断能力のない方への契約行為や金銭管理などを支援する成年後見センターが全国でもいち早くできており、非常に利用率が高い。障がいのある方にも大変助かっている。これからも行政からの支援を継続して欲しい。
- 後期計画でも基本計画事業として掲げる。前期計画では高齢者施策の一部としてとらえ、1 つの基本計画事業名を挙げていたが、後期計画では、障がい者施策として基本計画事業「【新規⑦】 障がい者の権利擁護を推進するために、成年後見制度の利用を支援します。」を掲げ、成年後見制度の利用を支援する。

「541-5 介護予防事業を推進します」

- ・ 親を介護している独身男性が増えている。負担も大きく、虐待寸前状態も少なくない。先日、地域包括支援センターで男性介護者の交流会が開催されたが、このような機会がとても大切だと思う。男性介護者に目を向けた事業を進めてほしい。

「541-6 介護サービスを充実・強化させます」

- ・ 高齢者の居場所の確保が、今後の大きな課題だと考えている。自宅での生活が困難になった独居高齢者はもちろん、重度認知症高齢者や虐待の疑いのある方など、介護保険制度で対応しきれない様々な問題を抱えた高齢者の住まいを確保することが急務となっている。今ある社会資源を活用、調整してほしい。
- ・ 東濃のタクシー会社出資による介護タクシーの事業所が開設されたことは良かったが、個別の事業者が営業を辞めてしまったことで受け皿が減った。受診の際など、車椅子やストレッチャーでの移送は大きな課題となっており、行政の働きかけを求めたい。
- ・ 市内で老人保健施設は 2 つあるが、本来 3 ヶ月のリハビリ期間を経て在宅へ移行すべき施設が、多くの方が特別養護老人ホーム待ちで、回転が悪く他の人が入所できない状況。ある介護老人保健施設では、レスパイトケア（家族介護者支援のための短期入所）を実施している。家族も、本人への介護負担を懸念しており、施設を出ても必ず入れるシステムがあれば安心して在宅へ戻れるようになる。入所待ちの要介護者への対策として、行政からの指導・支援が不可欠だと思う。

「542-2 障がい者の地域での生活の場であるグループホーム等の整備を支援します」

- ・ 精神障がい者のためのホームがないため困っている。症状としては知的障がいの状況に近くても、病名では精神疾患しか認められない方もいる。自立支援法でも知的障がいと精神疾患の壁を取り払って対応はできるはず。障がいの種類で可否を判断せず、希望があれば、個別の状況を見ながら柔軟に対応してほしい。

「542-5 日中一時支援事業等、障害者地域生活支援事業を実施します」

- ・ 医療を伴う身体障がい者のショートステイに苦慮している。市民病院のショートステイでは、病床に空きがあれば受け入れる体制となっており、予定があつてあらかじめ頼んでおいても直前にならないと受け入れ可能かどうか分ならず、実際には利用しにくい。市民病院だからこそ、市民のために前向きに対応してほしい。

○政策分野「行政運営・経営」

意見なし

6 次回の日程について

第4回委員会

日時：8 / 25 (木) 18:00～

場所：市役所 5階全員協議会室

【別表】出席者名簿

	出欠	氏名	所属	備考
委員	○	牛田 拓造	株式会社共栄電気炉製作所	代表取締役
	○	大村 浩司	社団法人 多治見青年会議所	理事長
	○	小口 英二	多治見まちづくり株式会社	事業課長
	○	木下 貴子	多治見ききょう法律事務所	弁護士
	○	田尻 宣子	公募委員	
	欠	中澤 香代	多治見市 PTA 連合会	母親委員長
	○	中津 道憲	中部大学 研究支援センター	教授
	○	野田 幸子	NPO 法人在宅支援グループ みんなの手	前代表
	○	原田 陽介	公募委員	
	○	平林 史孝	環境フェア実行委員会	委員長
	○	堀尾 憲慈	連合岐阜東濃地域協議会	議長
	○	牧野 民賀	NPO 法人まあーる	理事
	○	水野 隆吾	みずほ不動産鑑定事務所	不動産鑑定士
	事務局	○	青山 崇	企画部
○		吉村 健一	企画防災課	課長
○		桜井 康久	企画防災課	リーダー
○		岡安 秀明	企画防災課	
○		加藤 泰治	企画防災課6次総グループ	リーダー
○		横田 真己	企画防災課6次総グループ	
○		皆元 健一	企画防災課6次総グループ	
○		内山 祐介	企画防災課6次総グループ	
○		松尾 彰久	企画防災課6次総グループ	
○		富士 友紀乃	企画防災課6次総グループ	